

さんさん山城が パワーアップします！

京都式農福連携事業で
変わる！

利用者全員が主役

用語解説

耕作放棄地と
農福連携

「京都式農福連携事業」
の推進
2017年（平成29年）5
月26日、山田啓二京都府知事が
山城就労支援事業所「さんさ
ん山城」（以下、さんさん山城）
を「きょうと農福連携センター」

南部サテライト拠点に指定す
ることを発表しました。府内
全世帯、約120万部発行の
「きょうと府民だより7月号」
の特集記事、「つながる『農』
と『福』」の中でもさんさん山
城の取り組みが4ページにわ
たって紹介されたのは記憶に
新しいところです。

今年度、さんさん山城では京
都府から補助金を受け、京都
式農福連携事業に取り組みま
す。具体的には、食品加工設備
の拡充、コミュニケーションフェ
の美装、体験型農園の整備、これ
まで不十分だった利用者用更
衣室の新設や働きやすい環境
整備などです。

大学生から議員まで
「注目を浴びています」

私たちは2015年（平成27
年）まで農福連携の「ノ」の字
も知りませんでした。それが同
年12月、東京の農林水産省で開
催された「農福連携・特別展
示」にてモデル事業所に出出さ
れて以降、さんさん山城を取り
巻く環境は大きく変化しまし
た。毎月のように全国各地から
行政機関、大学、議員などが視
察に来られ、新聞やテレビなど
でも取り上げられ、様々な催し
から出店依頼を受けるように
なりました。

このような状況を作り上げ
たのは、誰でもない、さんさん
山城の利用者全員です。さんさ
ん山城にはいろいろな利用者
がいます。そしてさまざまな作
業があります。これまで、農業
（生産）、調理・菓子作り（加工）、
模擬店（販売）、すべての工程
において、成功もあれば失敗も
ありました。毎日コツコツと作
業を積み重ね、ときに喜び、と
きに冷や汗をかき、ときに衝突
し、それでもただ前だけを見て
進んできました。模擬店を開催
するときなど、こぞというど
きの団結力、「さんさん山城パ
ワー」にはいつも驚かされます。
「障害者でもできる仕事」で
はなく「さんさん山城だからで
きる仕事」。今回の事業を機に、
これまで積み上げてきた活動
基盤をより一層強化し、「地域
共生社会作り」を推進していこ
うと考えています。これまでた
くさんお世話になった地域の
人たちから「さんさん山城が近
くにあって良かった」と言わ
れる日まで……。

（京都府聴覚言語障害センター
山城就労支援課 藤永 実）



約10万人の来場があった「KARA-1グランプリ+大物産展」でも大行列（向日町競輪場）

詳しくは、京都府聴言センターホーム
ページをご覧ください。

京都府聴言センター

検索

現在、少子高齢化などの
理由により農家人口は減少
しています。それに伴い、使
われなくなった農地、いわ
ゆる「耕作放棄地」は全国に
38・6万ヘクタールにまで
広がっています（資料・農
林水産省「農林センサス」）。
これは滋賀県や埼玉県の面
積に匹敵する広さです。
一方で全国の障害者の就
労支援を取り巻く状況は、
安定した収入の確保や工賃
向上を目指すも厳しい現状
があり、苦慮している事業
所が多くあります。
そこで農家の担い手不足
解消を図りたい農林水産省
と、障害者の就労促進を推
し進めたい厚生労働省とが
タッグを組み、これまでの
縦割り行政を排除してそれ
ぞれが抱えている課題解決
に向けて取り組んでいるの
が「農福連携」です。